

平成 22 年 1 月 19 日

財務省改革について

1. 趣旨

政権交代後の政と官の関係の変化を踏まえ、英国の制度等も参考としつつ、財務省の業務運営(マネジメント)の在り方を抜本的に見直すこととし、若手も含めた有為な人材が、国家国民のために「誇りとやる気」を持って公務に精励する「魅力ある新たな公務員像」を財務省発で提案する。

2. 検討体制

事務次官の下、省内の中堅若手を中心とするプロジェクトチーム(部内公募)による検討を開始。

プロジェクトチームが、部内職員(外部からの出向者・地方職員を含む)からの意見募集に加え、外部有識者及び財務省退職者等からのヒアリングを実施し、多方面からの意見を集約した後、内からの改革を提言。

3. 主な検討項目

○これからの役人の在り方

- 政治主導の下での役人の在り方の検討

○オープンな人事制度の構築

- 人材流動性の向上(公募の導入、官民交流促進)
- 人事評価の在り方
- 人事異動における自主性の重視

○働き方の見直し(平日にデートができる勤務形態の確立)

- 行政版「カイゼン」運動の推進
- 超過勤務削減への取組
- 勤務形態等の柔軟化

○縦割り意識の払拭

- オープンな人事制度の構築(再掲)
- 局横断的課題の積極提言
- 多岐にわたる国際的課題に対応する新たなチームの創設

○誇りと安心を持って公務に専念できる環境整備

- 職種にとらわれない抜擢人事の実施
- 職員の専門性の向上
- 定年前後の専門知識の積極的活用